

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Smoking and alcohol drinking in relation to risk of gastric cancer: a population-based, prospective cohort study. 喫煙、飲酒と胃癌リスクとの関連：地域住民対象前向きコホート研究	
<b>執筆者</b>	
Sjödahl K, Lu Y, Nilsen TI, Ye W, Hveem K, Vatten L, Lagergren J.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Int J Cancer. 2007 Jan 1;120(1):128-32.	
<b>キーワード</b>	
癌、喫煙、寄与危険度、予防、関連	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景：</b> 喫煙、飲酒と胃癌リスクとの関連を確立する必要がある、予防策の効果を検討しなければならない。</p> <p><b>方法：</b> ノルウェイの Nord-Trondelag 郡において地域住民対象前向きコホート研究を行った。1984-1986 の間に成人住民を対象に検診を行い、喫煙、飲酒、その他の交絡因子について調査を行った。飲酒の調査は 14 日間について行った。追跡期間の 1984-2002 に起こった新規発症胃癌例の調査はノルウェイ癌登録と連結して行った。Cox 比例ハザードモデルを用いて性、教育歴、BMI を調整後のハザード比(HR)と 95%信頼区間(CI)を求めた。</p> <p><b>結果：</b> 69,962 人を対象とした 1,117,648 人年の追跡で 251 人の新規発症胃癌があり、その内 224 人は非噴門部癌であった。非喫煙者に比べて毎日喫煙者のリスクは約 2 倍であった (HR = 1.88 [95%CI= 1.33-2.67])。喫煙開始が若年であること(p = 0.02)、喫煙頻度 (p = 0.00)、喫煙期間 (p = 0.00)は独立危険因子であった。喫煙の寄与危険度は 8.7/100,000 人年であり、人口寄与危険度は 18.4%であった。飲酒量と胃癌リスクとの間に関連はみられなかったが、大量喫煙(&gt;20/day)と大量飲酒 (&gt;5 回/14 日)が組合わさると非噴門部癌のリスクは非喫煙非飲酒群と比べて 5 倍近くになった(HR = 4.90 [95% CI = 1.90-12.62])。</p> <p><b>結論：</b> 喫煙は用量依存的に胃癌リスクを増加させる。喫煙と飲酒が重複するとリスクが増加する。予防策を講じることにより胃癌発症が減少すると考えられる。</p>	